



廃棄物学会ニュース

The Japan Society of Waste Management Experts

No.95
廃棄物学会

11月20日に北九州市でお会いしましょう！！

第 17 回廃棄物学会研究発表会を「世界の環境首都」を目指す北九州市において、平成 18 年 11 月 20 日 (月) ～ 22 日 (水) に開催致します。行事内容や会場までのアクセスは、次のとおりです。多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

1 行事内容

(1) 研究発表会

(北九州国際会議場と西日本総合展示場新館中展示場の 2 会場)

口頭発表 279 件、ポスター126 件の計 405 件の発表が行われます。口頭発表は、昨年同様パワーポイントによる発表です。発表者は、発表ファイルを USB メモリーに入れて持参し、各セッション開始 15 分前までに、「講演ファイル受付」で発表会場のパソコンに登録して下さい。発表初日 (11 月 20 日) 午前の発表者は、遅れないようにお願い致します。

ポスター発表者は、発表会初日 (11 月 20 日) 9:30 ～11:00 に貼り付けてください。「ポスター1」の発表は 20 日 12:30～14:00、「ポスター2」の発表は 21 日 11:10～12:40 です。また、学会員の参加者全員が選ぶ優秀ポスターは、懇親会会場で表彰いたします。素晴らしいポスターの作成をお願いします。

(2) 特別シンポジウム

日時：11 月 21 日 (火) 13:00～15:15

場所：北九州国際会議場メインホール

テーマは「環境リスクについて考える ～リスクコミュニケーションの必要性和方策」です。北九州市在住の科学ジャーナリスト松永和紀氏による基調講演の後、産学官のパネリストでのディスカッションを行います。廃棄物処分場や PCB 処理施設の建設など、廃棄物処理に係わる事業を行うには、住民や利害関係者の理解と協力を得るためのリスクコミュニケーションが不可欠となっています。環境リスクとは何か、リスクコミュニケーションとは何かを皆で考え、議論しましょう。

(3) 受賞講演、国際シンポジウム、市民展示、小集会など

今年の論文賞受賞講演は、笹尾利明氏 (岩手大学) です。また、日韓廃棄物学会協力協定調印式と国際シンポジウムも行います。詳細は、参加案内または HP をご覧下さい。

(4) 施設見学会

日時：11 月 22 日 (水) 13:15～17:30

出発場所：北九州国際会議場前

北九州エコタウンを中心にした 2 コースです (A コース：海面埋立処分場、PCB 処理施設など、B コー

ス：各種リサイクル工場)。両コースとも事前受付で、定員に達しました。キャンセルがあった場合は、総合受付付近の掲示板でお知らせします。

(5) 懇親会

日時：11 月 21 日 (火) 18:30～20:30

場所：ステーションホテル小倉 5 階飛翔

北九州の郷土料理と小倉祇園太鼓で、小倉の夜を満喫してください。事前申込みは終了しましたので、当日申込み (7,000 円/人、21 日午前から受付) をお願いします。

(6) 論文集

参加者全員に CD-ROM 版論文集を配布します。CD 閲覧用のパソコンは、用意しませんのでご注意ください。

2 会場及びアクセス

会場は、JR 小倉駅北口 (新幹線口) から徒歩 5 分の北九州国際会議場と西日本総合展示場です。(「参加案内」p32 の展示場の名称が間違っております。正しくは「西日本総合展示場」です。ご注意ください。) JR 小倉駅までは、新幹線、今年 3 月に開港した新北九州空港経由、福岡空港経由の 3 ルートがあります。東京や名古屋からお越しの方は、特に新北九州空港が便利です。

3 研究発表会以外の環境・廃棄物関連の行事

研究発表会期間中には、会場周辺でエコ・テクノ 2006 など環境・廃棄物関連の行事が開催されます。ご興味のある方は、こちらにも是非ご来場下さい。

4 アフターコンベンション

研究発表会翌日 (11 月 23 日 (木)) は、祝日 (勤労感謝の日) です。北九州市には、門司港レトロなど素晴らしい観光地があります。お時間が許せば、アフターコンベンションで北九州観光をお楽しみ下さい。また、23 日からは、第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議が開催されます。詳しくは p3 をご覧下さい。

5 研究発表会の詳細情報

学会ホームページから入手できます。是非ご覧下さい。(http://www.jswme.gr.jp/taikai2006/)

それでは、北九州市でお待ちしています。

(実行委員会総括幹事 北九州市立大学 門上希和夫)

若手の会の会場が第 6 会場に変更になりました。

平成 18 年 8 月 31 日

「廃棄物問題と我国の国際的対応」

平成 18 年 8 月 31 日(木)、パシフィコ横浜において、ウェステック 2006 と同時開催された第 10 回日本廃棄物会議の中で、学会主催の上記テーマのシンポジウムを開催し、約 50 名が熱心に聴講した。

テーマの趣旨は、「廃棄物問題はかつて地域の中で完結するローカルな問題であったが、モノや情報の移動が国際化するにつれグローバルな問題となっており、取組みの実状、今後の課題等について各界から報告していただく」であった。

井手義弘副会長の開会挨拶の後、企画を担当した澤地實理事から上記の趣旨説明を行った。

本題に入り、北脇秀敏氏（東洋大学）から、「途上国の廃棄物処理は、発展状況に応じて対応レベルも上がり、また多面化する」という基調報告があった。次いで紀村英俊氏（環境省）から、「国際循環型社会の構築に向けて」と題し、廃棄物を含めた循環資源の越境移動と不法輸出入防止の取組み、さらに3R推進についてアジアでの取組みに触れ、今後国際的リーダーシップを目指す国の方針が示された。

自治体を代表して浜田雅巳氏（横浜市）から、アジア太平洋都市間協力ネットワーク（シティネット）等の「横浜市における廃棄物関連の国際交流」が報告された。

民間サイドからは、まずコンサルタント代表として

志村亨氏（国際航業(株)）から、JICA 開発調査、技術協力プロジェクトの経験から、中古の廃棄物収集機材供与を併せて行うことで効果が上がるとの報告があった。続いて、井上護氏（新明和工業(株)）から、廃棄物収集・運搬分野における海外協力の現状について、最後に大隈一男氏（(株)タクマ）から、東アジア、ヨーロッパの取組み状況と今後の国際的な企業戦略について報告があった。

今回のシンポジウムでは、各界からの報告に力点が置かれ、その後のパネルディスカッションでの補足的な説明や意見により、我国の多彩な国際的対応の実態が浮き彫りにされた。(理事 澤地 實 記)



▲シンポジウムの様子

平成 18 年 8 月 24 日

リサイクル施設見学会 開催報告

平成 18 年 8 月 24 日(木)、北海道支部主催で苫小牧市内のリサイクル関連施設見学会が開催され、23 名の参加があった。

(株) 苫小牧清掃社では、平成 5 年から廃木材に着目し、破砕・不純物の除去を行って、厩舎や牛舎の敷料、家畜ふん尿堆肥の水分調整材などとして有効活用する事業を行ってきた。また、平成 11 年からは、ラップフィルムなどの農業用廃プラスチックや紙等を利用して固形燃料(RPF)を製造し、製紙メーカーに熱源として供給してきた。

北海道エコリサイクルシステムズ(株)では、使用済み家電品の再商品化事業を目的として、平成11年から苫小牧東部地域において、家電リサイクル法の対象であるテレビ等の4品目の他に、パソコンやコピー機などの電子・電気機器類などの処理を行ってきた。

明円工業(株)では、市町村が集めた容器包装プラスチックを素材別に分類・加工して、カーペットや育苗箱などの原料となるポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン等のペレットを製造していた。また、同社で製造されているユニットハウス等の基礎に用いるプラスチック製の土台は、北海道認定リサイクル製品

となっている。

この見学会では、事業に対する理解が一層深められ、参加した学会員から興味深い質問が多数出て、時間が足りないぐらいであった。

なお、緑の美しい優雅な場で昼食を取ったこともあり、会員同士の一層の交流が図られ、充実した見学会となった。
(北海道支部 田畑寿幸 記)



▲見学会の様子

「平成18年度中国・四国支部 廃棄物セミナー」開催報告

平成 18 年 9 月 22 日(金)に、広島県において平成 18 年度中国四国支部廃棄物セミナーが開催された。

広島および山口方面から計約 60 人が貸切バスで集合し、まず広島市佐伯区の(株)カンサイにおいて、産業廃棄物中間処理施設の見学を行った。事務所内でのビデオによる説明の後、現場に移動し、破碎・乾燥・固定化・焼却などの各施設に加えて、発泡スチロール油化、汚泥炭化などの新しい試みについても解説を受けた。

引き続き会場を廿日市市の「きなり村」に移し、見学会・講演会を行った。きなり村では、(株)カンサイが自己完結型の循環型社会の実現を目指して、様々なプロジェクトに取り組んでいる。見学会では、広大なアーティチョーク畑やそれに関連するバイオ実験施設の説明を受けた。講演会は、敷地内にあるガラス張り三角錐のバイオスフィアを会場として行われた。まず、川本義勝氏((株)カンサイ)から「廃棄物処理業の今後の展望と、きなり村コンセプト」と題して、きなり村の立ち上げに至った経緯や廃棄物処理の今後の取り組みについて、自身の環境に対する考え方を交えながらお話があった。次に、奥田哲士氏(広島大学環境安全センター)から、「プラスチック廃棄物のリサイ

クルについて」と題した講演があり、我々の生活とプラスチック廃棄物との関わり、プラスチック廃棄物のリサイクルに関する問題点、問題解決のための研究事例紹介など、幅広い内容について、時折ユーモアも交えながらお話があった。講演会終了後は同会場で交流会も開催され、星空に囲まれたしやれた雰囲気の中、お互いの親睦を深めることができた。

(中国・四国支部 樋口隆哉 記)



▲講演会の様子

第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議のお知らせ

国際委員会

— 廃棄物の適正処理と3R推進のための専門家ネットワークの形成 —

第 17 回廃棄物学会研究発表会に引き続き 11 月 23～24 日に、同じ北九州国際会議場で、第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議を開催します。この会議は、昨年 10 月に東京で開催された第 1 回専門家会議の結果を受けたものです。

第 1 回の専門家会議では、「もったいない宣言」を合意しました。その概要は、次のとおりです。

「今、アジア・太平洋諸島の地域は、増大する廃棄物問題に直面しており、その管理と処理サービスの改善に迫られ、また、国境を越えるリサイクル資源の移動も急速に拡大している。こうした課題に適切に対処するには、適正処理に加え 3 R を推進し、地域全体で循環型社会の構築に取り組むことが必要となる。我々一同は、アジア太平洋地域の廃棄物管理専門家ネットワークの戦略的な重要性を理解し、知識と経験の交換を促進する専門家ネットワークの立ち上げに取り組むべきである」との結論に至った」

第 2 回専門家会議は、日本、韓国、中国、タイ、フィジーなど 10 数カ国・地域の専門家を招へいし、廃棄物専門家のネットワークの当面の活動、運営方法等を検討するとともに、各国・地域の現状を理解するためのセミナーを開催します。(第 2 回会議は、環境省の平成 18 年度廃棄物処理科学研究費補助金を受けて行われ

ます)

日時：2006 年 11 月 23 日(木)～24 日(金)

場所：北九州国際会議場

主催：第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議実行委員会(廃棄物学会、(財)地球環境戦略研究機関等)

使用言語：英語(23 日のみ同時通訳あり)

プログラム(予定)：

11 月 23 日(木)9:00～18:00 2 階 21 会議室

セミナー：基調講演 田中 勝(岡山大学)

トピックセッション

(1) 廃棄物管理の現状と問題

(2) 廃棄物の定義、測定方法

(3) 廃棄物管理の最近の動き

11 月 24 日(金)9:00～15:00 2 階国際会議室

午前：3 R 特別研究発表

午後：専門家会議

参加費：無料

申込方法：下記の HP よりご登録下さい。

http://www.iges.or.jp/jp/news/event/0611_3r/

問合先：第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議事務局

((財)地球環境戦略研究機関(IGES)北九州事務所内)

TEL：093-513-3711 FAX：093-513-3712

E-mail：expertmeeting@iges.or.jp

【お知らせ】

廃棄物学会主催 技術セミナー

— 食品廃棄物リサイクル技術の最前線 —

循環型社会の形成へ向け、容器包装や家電、自動車等に関する各種のリサイクル法など、廃棄物の発生を抑制するための法整備が行われています。食品廃棄物についても食品廃棄物リサイクル法が平成13年に施行され、平成18年度までに、食品廃棄物の20%を削減する目標が、立てられています。また、農林水産省では、今年の3月に「バイオマス・ニッポン総合戦略」の見直しを行い、食品廃棄物を含むバイオマスのリサイクル施設の整備を図っています。

このような社会情勢の中で、今年、東京都スーパーエコタウン内に、食品製造残渣等を原料としたメタンガス化・発電施設と飼料化施設が、竣工しました。

そこで、今年の技術セミナーとして、最新の食品廃棄物リサイクル施設を見学し、食品廃棄物のリサイクルの現状について考える機会を企画しました。

開催日時：平成18年12月6日(水) 13:00～17:40

集合場所：品川駅集合・解散（バスで移動します）

見 学 先：1)食品廃棄物のメタンガス化・発電施設
(バイオエナジー株)

2)食品廃棄物の飼料化施設 (株アルフォ)

参 加 費：10,000円（当日、申し受けます。）

定 員：40名（先着順、定員になり次第締切ります。）

申込方法：①氏名、②所属、③連絡先、④TEL、⑤FAX、⑥参加人数をご記入の上、廃棄物学会事務局まで FAXにてお申込ください。

※廃棄物学会会員に限らせていただきます。

申込期間：平成18年11月1日(水)～11月28日(火)

申込後の案内：申込み締切後、参加者には、集合場所等を FAXで連絡します。

申 込 先：廃棄物学会事務局

TEL 03-3769-5099 FAX 03-3769-1492

※詳細については下記ホームページをご覧ください。

<http://www.jswme.gr.jp/>

11月20日(月)～11月22日(水)は、研究発表会開催のため、事務局は不在となります。

会 員 状 況		H18.9.29 現在
		() 内は、H18.4.1 以降の増減
正 会 員	3,336	(25)
学生会員	356	(44)
外国人会員(DM)	26	(1)
登録団体市民会員	4	(0)
公益会員	110	(1)
賛助会員	164	(-7)
計	3,996	(64)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 95 平成18年11月1日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

<http://www.jswme.gr.jp>



印刷媒体は古紙配合率100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.58 (October)

発行のお知らせ

英文ニューズレター第58号が発行されました。

※JSWME NEWSLETTER は41号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会HPから入手できます。

(主要目次)

循環型社会の構築へ：英語版「循環型社会」の発行(環境省)

廃棄物分野のODA：サモアにおける埋立地の修復事業(JICA 開発調査)

日本の焼却処理紹介：ごみ焼却施設のサーマルリサイクル

国際シンポジウム紹介：第2回アジア太平洋廃棄物専門家会議ほか

High Moon：環境と安全はみんなが守らなければなりません。

The contents of No.58

- 1 Dear Waste Management Experts
 - 2 English-written report on "Sound Material-Cycle Society" released
 - 3 Japan's ODA on SWM: Samoa's Tafaigata Landfill Rehabilitation Project
 - 4 Waste to Energy in Japan: Thermal Recycle in Incineration Plant
 - 5 International Symposium Information: The 2nd Expert Meeting of Asia and Pacific Islands will be held in Kitakyushu
- Cartoon by High Moon: "Environment and Safety must be ensured by everyone"

☆☆事務局だより☆☆

いつも学会のWebページをご覧いただきましてありがとうございます。この場を借りまして、アクセスの状況を報告いたします。過去1ヶ月間(9月16日～10月15日)のトップページへのアクセスは、延べ6,923件でした。これは、論文要旨等の深い階層のページに直接アクセスされた件数は含んでおりません。日変動を見ますと、平日にアクセスが多く、土日祝には件数が半減しています。

なお、北九州大会のページへは、同期間に2,460件のアクセスがありました。事前参加申込締切日には、大会ページへのアクセスが、学会トップの半分以上を超えるなど、大会への関心が非常に高いことが伺えました。

今後とも、学会ニュース共々、Webページへのご協力をよろしくお願いいたします。(松本礼史 記)

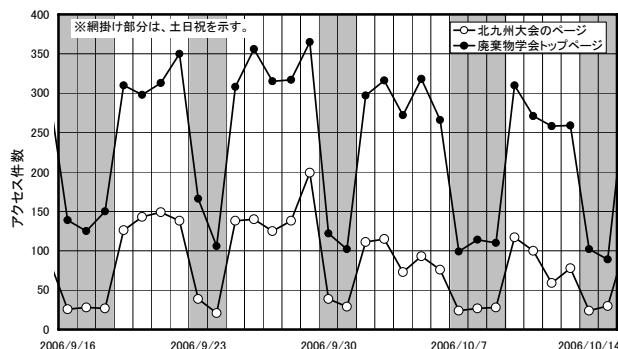


図 廃棄物学会Webページへのアクセス件数

次号(学会ニュース No. 96)は1月1日発行予定です。